

まちづくりミーティング開催結果概要



開催テーマ 桐生市の放課後児童クラブについて

参加者

桐生市学童保育連絡協議会 19名

桐生市長

傍聴者 なし

報道機関 2名

日時：令和6年2月14日（水）午後6時55分～午後8時10分

場所：桐生市立北小学校 北小っ子クラブ

1 開会

2 あいさつ

3 議題

桐生市の放課後児童クラブについて

意見交換のポイント

- 放課後児童クラブの現状と課題について
- 放課後児童クラブ支援員・補助員の確保について 等

4 閉会

桐生市学童保育連絡協議会の取組や課題について

① 桐生市学童保育連絡協議会について

★桐生市学童保育連絡協議会とは

児童の保護者・指導員、学童保育の内容充実に賛同する団体・個人により構成

★発足時期

2001年5月

★代表者

小島 菜子（ニューたんぼクラブ）

学童保育



② 桐生市学童保育連絡協議会の取組について（協議会規約より）

目的

学童保育の普及・発展を図り、学童保育の内容充実のために必要な事業を行う。



事業

- 学童保育施設拡充のための運動
- 各学童保育所の交流
- 情報交換のための会議開催、ニュース刊行
- 保育内容を充実させるための学習会、研修会の実施
- 指導員の労働条件改善に向けた運動 など



③ 課題について

クラブ運営に当たっての課題

- 通年利用について
- 長期休暇のみの利用について
- 煩雑な事務作業の軽減について
- 支援員・補助員の確保について
- 支援員の高齢化について
- 支援員の資質向上について など



意見交換のポイント

- 放課後児童クラブの現状・課題について
- 放課後児童クラブ支援員・補助員の確保について

（小島代表）
 本日は開催テーマを「桐生市の放課後児童クラブについて」とし、荒木市長を招いて意見交換をさせていただく。

（市長）
 本日は放課後児童クラブに関し、日頃感じていることなどについて意見を伺い、共に考え、放課後児童クラブの更なる内容充実を図ってまいります。

（小島代表）
 まずは、本協議会の取組などについて説明させていただきます。

※資料参照



学童はなくてはならない存在

(意見)

子どもが学童でお世話になっていて、子どもからは楽しいという話しか聞いたことがない。自分も迎えに行くのが、本当に楽しいということ。非常には学童に通っている子の時代は学童に通っている子は少なかったが、今では共働きの家庭も増えたため、学童の充実は大変ありがたいと感じている。保育園もそうだが学童もなくてはならない存在となっており、仕事をしたい



(協議会)

本協議会の取組などについて説明させていただいた。次に、協議会員より、日頃感じていることなどについて順番にお伝えしたい。



(市長)

保護者と放課後児童クラブ間で良好な関係が構築されているのだと話聞いていて感じ取れ、自分も嬉しい気持ちになった。また、今の話を聞く中で、クラブの素晴らしい運営がされているということ、が分かったので、引き続きこのような関係が構築できるようにしていただきたい。

て心配になることはなく、安心して預けることができている。クラブでは、イベントを開催するなど色々楽しめている。支援員としては大変であると思われるが、子どもたちは楽しく過ごさせていただいている。また、テレビを見せるということではなく、ボードゲームや昔ながらの遊びに触れ合えることも大変良いことであると感じている。



縦のつながりによる交流



(意見)
通っているクラブについては、児童数が112人と大変多い中、うちの子どもは発達に障害を抱えており、同学年だけではなく、上の学年や下の学年と年齢関係なく交流が図れることについては、子どもにとって大変プラスになっていると思う。また、最近では、感染症対策という点では、人数が多い中、支援員の方々が色々工夫をしてくださり、大変感謝している。感染が広まってしまうと親としても仕事に行けなくなってしまうので、現在、若干増加の傾向もあることから、感染症対策は今後続く課題かと思う。



クラブの人数の増加について



(意見)
子どもがクラブに通っており、お世話になっていて、両親が働きで帰りも遅いため、生活を支えてもらっている。自分も子どもの頃通っていたが、その際良い思い出があり、自分の子どもも通わせることができ嬉しく思っている。しかし、昔と違い、今では子どもの人数が多くなっているのが驚きであり、人数が多く大変な中、一生懸命みていただいていることを感謝したいと思う。

(市長)
子どもが増えているということやはり社会環境が変化しており、共働きの中で子育てを行うことが多くなってきたということがある。特にお父さん、お母さんが安心して仕事をするができるということ、経済的な充実や給料のアップにもつながるといことであり、子育て環境の充実により、皆の自立につながっていくので、このクラブの役割は重要であると考えている。

(市長)

新たなキーワードとして「縦のつながり」ということがこの放課後児童クラブの良いところであり、少子化や兄弟が少ない中、このようなつながりを感じられることは子どもたちにとっても大変素晴らしいことであると思う。感染症対策については、今日も学級閉鎖があるなどしており、いくら注意しても感染が起こってしまうため、引き続き感染対策を徹底していただくようお願いするということしかないが、コロナが流行り始めた際に、マスクが不足していた時期があり、自分としても学童保育の大切さを感じていたため、一番最初に放課後児童クラブへマスクの支給をさせていただいた。市としてもクラブの運営については大切であると考えているため、これからも引き続きクラブの発展のために声をいただきながら進めていければと思う。



長期休暇のみの 利用への対応について

(意見)
 普段3つの部屋を活用しているが、部屋に入れる人数が限られており、長期休暇の利用の際は、人数が溢れてしまうことがある。夏休みには小学校の一部屋を借りて保育を行ってしているが、二手に分かれてしまうため、運営に不便を感じている。



震災対策について

(意見)
 私たちのクラブについては、専用施設を使用しており、環境的には恵まれていると感じているが、耐震工事がまだされておらず、万が一のことがあった際には命を守るための対策が必要ではないかと心配している。

(市長)
 能登半島の地震においても、その殆どが圧死であり、建物が垂直に落ちたことによるものであるとのことである。学校や保育施設全体を耐震化することは、多額の費用や時間もかかるため、例えば一室だけを耐震シエルトーとして整備し、地震が起きた際はそこへ避難して圧死から免れるという取組も効果的である。来年度から、個人住宅を対象に耐震シエルトーの補助を進めていきたいと思うが、クラブ運営でもその方法は生かせるかどうかもあるかと思われ、進めるので、担当と協議をしながら進めていきたい。

(市長)
 それぞれのクラブの方向が抱えている課題や問題点については、担当へ相談いただければ解決に向けて対応できるように進めていきたい。



施設管理（木の伐採）について



球都桐生プロジェクトとの連携



（意見）

放課後児童クラブは、共働き世帯にとっても本当に必要なインフラであると思われている。子どもがお世話になっているが、クラブのハードやソフト両面について、運営委員会や支援員、保護者、地域の民生委員・児童委員の方々にもイベントに参加いただき、地域とのつながりを作りながら円滑に運営できている。ためにも感謝している。現在、市では球都桐生プロジェクトを進めていると思うが、昨年9月に「新川公園野球フェス」で行われたベースボール5などを長期で利用している児童に対して、外部講師などを招いて教えていただくなど、球都桐生に触れられる機会を行政の協力をいただければ良いと考えている。



（意見）

施設管理の観点から、以前、強風で桜が垂れ下がった際、市へ伝え、業者により伐採していただいたが、園庭にどんぐりの木があり、夏場は日陰になり涼しくて良いが、低い位置や細い枝の剪定については、私たちが対応しているが、高い位置や太い枝については専門業者をお願いしたいと思う。

（市長）

高所など、危険を伴うことは避けていただき、そのような相談については、担当へ相談していただければ現地調査するなり十分協議をして対応していきたいと思う。

（担当）

状況把握させていただき、優先順位を考慮し対応させていただきます。

（市長）

野球だけがスポーツというだけでなく、桐生市が持っている地域資源の一つに野球があったため、野球に特化したところでは子どもたちの健全育成や目的として子どもたちの進めたいと考えている。昨年、球都桐生スペシャルセミナーの一つでスポーツマンシップ協会の立教大学中村准教授に講演いただいた際、スポーツマンシップ精神として、「勇気」「尊重」「覚悟」というものを唱えていた。この三つを持った子どもたちが先生方、またこれからクラブ活動が地域移行になるにつれ、全ての方がスポーツマンシップを持っていただくことにより、いじめも当然なくなり、相手のことを思いやる気持ちもでき、自ら決めたことは覚悟を持って最後までやるということもしっかりと継承できると思われるため、まずは学校の先生に聞いていただき、それから子どもたち、指導者などに広げていき、最後には全ての市民の方にこの精神を理解いただき、心豊かで優しさや思いやり、気遣いといった心の絆を持てるような子どもたちや大人の方々にあふれるまちになればと考えている。

異学年交流について



(意見)
自分は桐生出身ではなく、両親も近くにおらず、妻と共働きであるため、保育園の時からもそうだが、正直小学校へ通うのも最初は丈夫であるか不安だったが、今では安心して通わせることができている。子どもも初めはさみしいと話していたが、楽しいという気持ちに変わってきている。児童の中では、色々な学年がいるため、人間関係もうまくできている。そのような中、今現在クラブへ通っていない子どもたちと生活スタイルが異なり、通っていない子はゲームなどで遊んでいることが多いが、児童ではそのようなものでは遊んでいないため、中学に入った時にそれぞれ遊び方にギャップがあり、その点が少し心配であるため、このようなギャップを埋めるための交流ができれば良いと考えている。

(市長)
こども家庭庁が昨年4月に発足し、「こどもの居場所づくりに関する指針」の中で学童クラブの大切さについても示されている。その中で学童に通っている子と通っていない子に対する共通認識を持った対応というものも示されているが、具体的な内容については、これから皆さんに意見を伺いながら取り組まなければならない課題であると考えている。

また、本来、異学年での交流や地域との触れ合いについては、子育連や育成会が行ってきた内容であったものが、子育連がなくなってしまうなど、中々子どもたちが縦や横の連携を地域の中で行うということが難しくなってしまうことが懸念されている。そのようなことを市としても対応しなければならぬと感じているため、色々な意見をいただきたい。



熱中症対策について



(意見)
自分が子どもの時は学童というものはなく、うちも共働きで小学校1年生から鍵っ子であったため、今は学童がある子どもたちがうらやましく思う。子どもたちをおうちにいる時と同じように過ごさせていただったり、昔の遊びを色々としていただったり、大変ありがたく思っている。通っているクラブは人数的には多い方ではないが、猛暑日などでは空調が効かず、親としては熱中症がとても心配である。先生方も水遊びや涼しい時間帯に外遊びをしていたりなど工夫していただいているが、小さい子はダウンしてしまう子もいるため、熱中症対策について検討していただければと思う。

(市長)
学童での熱中症対策については、空調が入っていれば大丈夫であるというようなことで安心してしまっていたが、実際話を伺い、必ずしも十分な対応ではないということを感じさせていただいた。昨年日本一暑いということ、桐生市が注目されており、暑さ対策については色々取り組んでいきたいと考えている。個人向けとしては、来年度、自宅にエアコンを設置する方へ補助を行うということも考えているところである。現状については把握させていただいたため、担当と協議させていただき、対応していきたい。



学校適正配置について



(意見)
小学校の適正配置の情報について、保護者の方への説明はあったと聞いているが、学童へあまり知らされておらず、報道で知るような情報しかない。支援員の高齢化が進んでおり、人員不足で若手の支援員を募りたいが、今後学校の適正配置により学童についても今後どのようになるのかが分からないと募集ができない状況である。市と学校間との話し合いは進めたいと思うが、適正配置後の学童についても協議していただきたい。情報共有していただきたい。

学校と放課後児童クラブ間での情報共有について



(意見)
私たちのクラブは適正規模で問題なく運営をしているが、学校との連携が少し足りないと感じており、支援員の研修に参加すると学校との連携が重要であるということとを聞くため、別々ではなく、一緒に子どもを育てているという学校の組織として、例えば障害を抱えている子の指導方法についてなど、色々と意見交換をして情報共有ができればと考えている。

(市長)
正にその通りであり、例えば不登校については子どもの孤立が原因であり、学校の中では解決できない問題であっても、学童の中にもしかしたら解決できるヒントになることがあるかもしれない。また、横のつながりで社会全体で子どもたちを守っていくという点では、学校や地域との連携というところが必要になってくると思われるため、引き続き教育委員会と子どもすこやか部が連携を取りながら進めていきたいと考えている。

(市長)
小中学校の適正配置については、中学校区9つに分け、市の考え方を説明させていただいた。昨年出身した桐生市子どもは4000人弱であり、桐生市では17校あるうち、30人学級であると12クラスしかできないため、将来的な子どもたちの人口にあった適正配置がどうしても必要となる。適正規模・適正配置の検討委員会では、地域の代表、学校の先生、PTA、評議員の方々と進めている段階であり、これから各中学校区においてさらに協議・検討を進めていく予定であるため、その際はぜひ参加していただきたい。また、そのような情報共有についてもしっかりとできるような担当へ伝えたい。やはり学校適正配置については、地域に学校がなくなってしまうという否定的な意見もあるが、本来、子どもたちの健やかな教育環境実現のための適正配置であるため、地域の方としっかり協議しながら全ての方が納得した上でスタートしたいと考えている。

学校との連携・情報共有化について

(意見)
4月から新一年生を受け入れることになると、学校との情報共有の少なさを感じる。今まで保育園で年長であった子が今度は縦割りの中の一、二番小さい学年になることについて、とてもギャップがある。保育園での生活の様子・心配事について、小学校には保育園から伝わっているようであるが、学童クラブへはそのような情報はなく、友達同士でトラブルの元になったりもするため、何か良い案があればと思う。

(市長)
子どもたちにとって進学など環境が異なるとギャップが生じ、子どもたちの抱える大きな問題がクローズアップされるが、やはりそれは情報の共有が一番大事であると考えている。特に、障害を抱えているお子さんについては、その都度情報を聞くことはできないので、その点については、個人情報関係上難しい点もあるかと思われるが、学校だけへの情報共有だけでなく、共有できる場所はしっかりと共有することが、子どもたちのためにも非常に良いことであると考えているため、そのような意見があったことについては教育委員会へ伝えさせていただく。



支援員の人員不足について

(意見)
学童については、少子高齢化で子どもが減っているが、学童の利用率は年々高くなっている。そのような中、長期休みのみの利用が増えており、低学年は少ないが、高学年になるにつれ、通年利用から長期休みの利用へ移行するため大人数となり、スペース不足により部屋を作り替えるなどの対応をしている状況である。普段学童に通っている子たちにとって、支援員と子どもたちの間で信頼関係の中で築き上げた生活空間に、長期休みのみ利用する子が急に入ってきた際、子どもたちに違和感が生じてしまい、支援員としてのように対応してよいか苦慮することがある。また、支援員の確保が課題となっていて、支援員の仕事に楽しいということを上手く発信できているのか疑問であり、上手に発信できればそれを見て支援員をやってみようと思う方も増えると思われる。次を継いでいけるような方を見つけ、長く勤められるような環境になっていければ良いと考える。



(市長)
長期休みのみの利用が増えるのは、共働き世帯が増え、夏休みなどにどうしても子どもを預けなければならぬケースが出てくるためであると思われるが、ぜひその部分も受け入れていただければよい工夫をしていただければと思う。保育環境の中で様々な問題が発生した場合は、担当へ相談していただき、色々な形で解決方法を一緒に探していければと思う。また、支援員の人員不足については、市でも八戸ワークや支援員登録制度を実施しているが、中々希望される方が少ないというのが現状であるため、色々な方が興味を持っていただくような求人の方などを考えていかなければならないと考えている。学童は長期に渡って間違いなく必要なものであるため、無くなることはないように対応していきたい。

課題解決に向けた協議について



支援員の資質向上・待遇改善について

(意見)
施設がもう少しゆったりとしたスペースを確保できればと考えているが、専用スペースではないので、一つの部屋の中で台所があったり、静養スペースを作るなどしなければならず、感染症対策として非常に心配しており、静養室は必要であると感じている。子どもたちが一人一人関わってもらいたいと話しかけてくるが支援員も少なく忙しくて対応しきれず、子どもたちの悩みなども聞いてあげられない。支援員は専門性が必要であり、保育の蓄積が重要で、積み重ねることにより質を高めることとなる。また、成り手がいなかったり、支援員になつてやりたいが生活が事は苦しいため辞めていってしまうなどの例があるため、給料の底上げも必要であると感じている。国の運営指針でも示されている「子どもの最善の利益」につなげるため、行政と当事者間で協議していく必要があると思われる。



(意見)
市の示す方向性と学童の現場では温度差が少しあるような気がしており、長期休みのみ預けることについては、親としては賛成で子どもたちの将来においても大事なことであると思われるが、実際には、長期と通常保育での児童の扱いに困るという意見もあつたため、どのように対応するかが重要であり、市にとっても学童は非常に大事であるという話もいただいたため、本気で一緒に考え検討していただきたい。建物の環境についても学校に設置されている方が行き来がないため親としては安心するが、学校と学童は同じ敷地ですぐ隣にあるのに壁があるような気がしてしまう。規約にも学校や地域と連携するということが明記されているため、その点も一緒に考えていければ良いと考える。

(市長)
現在学童保育は学校内で運営されていることが殆どであるが、その背景としては、子どもの移動の安全性を図ることができるところが一つであり、一方で、ご意見のような課題もあるものと考へている。各クラブにより対応が異なると思われるので、十分話を伺いながら対処していければ良いと思う。支援員の成り手不足については、事務手続きの煩雑さにより子どもに関わる時間がなくなってしまうということもあるものと考へられ、負担軽減の一つに事務の効率化も検討していきたいと考えている。来年度から入退室の管理ができるシステムを導入させていただくが、導入により負担軽減につながるのか否かについては皆さんに意見を伺わせていただければと思う。いただいた意見については、しっかりと検討していきたい。



(市長)

まちづくりミーティングの趣旨としては、市側が考えていることと現場の第一線で活躍していただいている皆さんより意見をいただき、その差異を埋めることが大きな目的であるため、いただいた意見も参考に「共感」と「共創」で一緒に考えていければと思う。

支援員の育児休業・時短勤務について

支援員の高齢化や 感染症対策について

(市長)
市で検討して対応できることであれば検討させていただきます。

(担当)
現在、クラブの運営については、全市的に運営マニュアルに沿って対応していただいているが、今後の経済社会情勢の変化や育児・介護休業法など国の施策の変更が生じる場合などにおいては、各運営委員会と協議を重ねながら、検討させていただきたい。



(意見)
自分がこれから産休・育休に入る予定だが、育休の期間が1年であり、時短勤務については3歳までの適用ということがあるため、今後子育てをする立場としては時短勤務は小学校をあげるまでは適用していただくなど検討していただきた



(意見)
支援員の高齢化が一番の課題となっており、午後7時までの勤務となると小さいお子さんがいる場合は保育園へ預けるにも延長料金がかかってしまうなどの理由で中々難しく、後継者不足となっているのが心配なところである。また、現在小学校の使用していない余裕教室の3部屋を使用しているが、可能であれば静養室としてもう1部屋借りることができれば良いと思う。現状では発熱した子どもを部屋の一角に寝かせたりしているが、感染症対策のためにもしっかりと静養室を用意していただきた

(市長)
やはり後継者・成り手不足は大きな問題になっているというところで、一方、コロナの関係で働き方改革が進んでリモートワークや長時間労働の禁止等も出ているので、そのようなことも上手く結び付けながら進めていければと考える。また、支援員の募集方法についても工夫しながら行って





(小島代表)
 現場の生の声を直接市長へ伝えられることができて良かったと思う。放課後児童クラブについては、親が働いていくために、子どもが必要な場であるため、子どもたちが伸び伸びと楽しみながら色々な学年と交流できるように支援員の方によっていただいております。様々な課題があると思われるが、そのような中でも子どもたちが成長していける状況を築いていただいている。児童という場について、市とも意見交換しながらこれから更なる環境改善に向けて取り組んでいきたい。

(市長)
 貴重なご意見をいただき感謝したい。もう少し早くこのような場を設けられれば良かったと感じた。これから継続してこのような意見交換ができればと思う。また、現場の身近な課題や問題について、それぞれ担当へ相談していただければ、解決に向けて検討させていただく。現在、子どもたちの居場所づくりが、一番求められている要素であり、食堂、不登校への対応、子ども食堂、ステーションなどの引き継ぎなど、色々なところの連携が、子どもたちの健康や成長のために引き続きお力をいただければありがたい。

